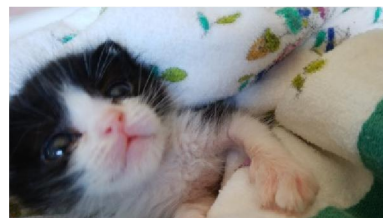


赤ちゃん猫の育て方 ～授乳と排泄～



赤ちゃん猫を救えるのはあなたです

赤ちゃん猫は、生後 1 か月半を過ぎる頃までお母さん猫に守られ、母乳をもらい、排泄も助けてもらいます。お母さん猫の存在がなくては 1 日も生きていけません。どうか、そのお母さん猫の代わりをして頂けないでしょうか。大変なことです、命の尊さと輝きを感じる仕事です。どうか、あなたの手の中の赤ちゃん猫が、自分の足で動き食べられるように、やさしい家族に出会えるように、お力をお貸し下さい。



赤ちゃん猫を育てるときに大切なことは？

まず、一番大切なことは授乳です。

でも、赤ちゃん猫がすんなりと哺乳瓶に吸い付いてくれることはラッキーなことで、ほとんどの場合、ここで苦労します。ですから、授乳については、後に詳しく説明します。

次に大切なことは排泄です。赤ちゃん猫ははじめのうちはお母さん猫にお尻を舐めてもらって排泄を援助してもらいます。その代わりをしてあげなくてはなりません。排泄についても後ほど説明します。

また、赤ちゃん猫はお母さん猫やきょうだい猫の温もりによって体温を保っています。ですから、赤ちゃん猫を育てるときは常に温かい場所が必要で、段ボールなどの箱に毛布を敷いたり、カイロやエアコン等の暖房を使用し、**体温保持**に配慮が必要です。

赤ちゃん猫を育てるポイント → 授乳
排泄
体温保持



次は、赤ちゃん猫の健康管理について。

赤ちゃん猫が順調に育っているかどうかの目安のひとつが体重です。メモ程度でいいので、育児記録表を作ってみましょう。体重のほか、排泄の有無、できれば授乳時間と飲んだミルクの量や気づいたことを毎日記録しましょう。成長を確認できますし、異変も早期に発見でき、動物病院で診察を受ける際にも役に立ちます。

赤ちゃん猫をお世話するときに注意したいことは、赤ちゃん猫に触れる前に手を洗い、清潔にすることです。哺乳瓶でミルクを作る前も同じです。特に、お母さん猫と早く離れてしまった子猫は、免疫が少なく、病原菌の影響を強く受けてしまうので、注意が必要です。また、自分の手が冷たいときは、お湯等で温めておき、子猫の体を冷やさないように気をつけましょう。



授乳ってどうするの？

○準備するものは？

・子猫用ミルク

子猫に牛乳は禁物です。猫は人間と違って牛乳に含まれている「乳糖」という成分を分解することが難しく、下痢を起こしてしまい、最悪の場合死に到ります。また、子猫に必要な栄養分も足りず、栄養失調を起こすこともあります。

ですから、赤ちゃん猫のお世話をすることを決めたらすぐに、ペットショップかホームセンターのペットコーナーで子猫用ミルク（幼猫用ミルク）を購入しましょう。

・子猫用哺乳瓶

これも子猫用ミルクと一緒に準備しましょう。



いる「乳糖」

○授乳してみよう

・ミルクの温度って？

適温は人肌程度（37～38℃くらい）です。熱くし過ぎないようにしましょう。途中で冷める心配がある場合はマグカップ等に湯を張り、湯煎しながら温度を維持しても大丈夫です。

たくさん作って冷蔵庫で保管し、その都度温めなおして与えていると成分が変わったり、雑菌が繁殖するのでやめましょう。また、電子レンジで温めなおすと温度が60℃以上になり、大切な栄養素であるタンパク質が破壊されてしまうので行わないこと。作り置きミルクも細菌が繁殖しやすく、子猫の命にかかわるので、授乳の都度、新しいものを調乳しましょう。



・どのように飲ませたらいいの？

赤ちゃん猫にミルクを飲ませるときは、必ずうつ伏せで飲ませます。けっして、仰向けにしないようにしてください。仰向けは誤嚥の原因になり、危険です。飲んでいるときに後ろ足を突っ張って立ち上がった状態で飲むこともあります。それはかまいません。



そして、授乳の基本は子猫自身の力で吸わせることです。口元に近づけると反射的に吸い付く本能が子猫にあるので、うつ伏せにして、軽く体を支えながら哺乳瓶をくわえさせます。子猫によっては、両手を突っ張って「ふみふみ」の形でミルクを飲むこともあるので、哺乳瓶を持っている手かもう一方の手に子猫の手を乗せるか、膝の上にタオルなどを敷いて授乳し、布を「ふみふみ」させるようにすると飲ませやすいかもしれません。“うつ伏せ”という基本さえ守れば、飲みやすい形を模索していけます。

生後間もない子猫の場合は、ミルクを飲むのにとっても時間がかかります。飲んでいながら身体が冷えてしまわないよう、温かい毛布等に腹ばいにさせながら飲ませるとお腹が冷えやすくなります。

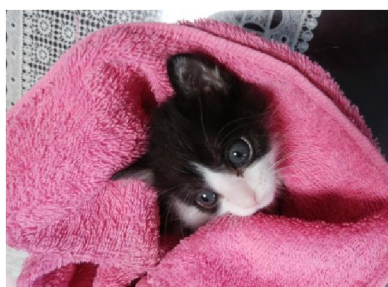
ただし、はじめから哺乳瓶に吸い付いてくれるのはとても幸運で、保護された子猫は、最初哺乳瓶からの授乳を必ずといっていいほど拒否すると思います。

赤ちゃん猫は、お母さん猫と別れるまでお母さんのおっぱいから母乳を飲んでいたので、「哺乳瓶のゴムからミルクが出るんだ！」と認識するまで時間がかかるのも仕方ないです。お母さんのおっぱいと哺乳瓶のゴムではどうしても感触が違ったり、体を支えられて飲むことにも慣れていないでしょうから。

では、どのようにしたらうまくミルクを飲んでくれるのでしょうか？



・なかなか飲んでくれない。どうしたらいいの？



哺乳瓶で授乳するコツは、まず、赤ちゃん猫の口の中にミルクが少しついた状態のゴム部分を入れて、ほんの少し前後に動かすようにしてみましょう。そのとき、けっして喉の奥まで乳首を押し込まないようにしてください。つい、飲んでほしくて奥まで突っ込んでしまいたくなりますが、無理やり飲ませようとすると、ミルクが気管に入り、誤嚥から肺炎を起こすことがあるので危険です。吸い付いてきたら動きを止め、赤ちゃん猫が自分で吸えるようにそっと哺乳瓶を保ちます。また、その際、乳首の部分が常にミルクで満たされているように、60度くらいに傾けましょう。

哺乳瓶のキャップをきっちり締めすぎると、空気抜きがなかなかできずに哺乳瓶の中が真空状態になってミルクが出てこなくなります。ミルクがもれず、空気が抜けるように適度にキャップをゆるめて授乳してください。

それでもなかなか飲めないときは、乳首の穴が小さく、吸う力が弱くてミルクが出にくい場合があります。穴が小さいと適量飲めないまま吸い疲れてしまうようです。そのときは乳首の穴を大きくしてみましょう。眉用のはさみ等、先のとがったはさみで慎重に穴を 0.5mm (1mmの半分です!) くらい大きくして飲ませてみましょう。様子を見て必要ならさらに 0.5mm というように慎重に少しづつ開けていきましょう。穴が大きすぎるとミルクが出過ぎて気管に入り、誤嚥を引き起こしてしまいます。くれぐれも穴の調節は慎重にしてください。

* 哺乳瓶の取り扱いで注意すること

子猫に歯が生えてきたら、噛んでゴムに穴をあけたり、食いちぎってしまったり飲み込む可能性があるため、少しでも穴が開いたり、亀裂が入ったりしたら、新しいものと交換しましょう。(動物病院で、ゴムの部分だけ別売してもらえるので早めに注文してください。)

子猫によってはどんなに手を尽くしても飲んでくれない場合があります。そのときは、いつまでもがんばらずに、早めに授乳の経験を積んだ人に助けを求めましょう。そのためには、頼れる人にいざというときにヘルプしてもらえるよう、あらかじめ連絡をとっておくと安心ですね。育てる上で困ったときも、具体的な助言がもらえることでしょう。

また、頼れる人がいないときは、動物病院に連れて行くと適切なアドバイスや援助を受けることができます。シリンジで授乳することになったときには、哺乳瓶での授乳以上に、誤嚥しないようくれぐれも少しづつゆっくり飲ませてください。



・授乳の間隔はどれくらい？

授乳は、生後間もないときは2,3時間から3,4時間おきというのが基本です。ただし、時間通りにすればよいというものでもなく、できればお腹が空いて、自分からミルクを欲しがるときに与えるのが理想です。ぐっすり寝ているようなら、少し待ってから授乳するとよいでしょう。

ただし、生後14日頃までは8時間以上ミルクを飲まずにいると低血糖を起こすことがあるので、あまりに長時間寝ているときや、その前に飲んだミルクの量が少なかったときは、起こしてでも飲ませてあげてください。

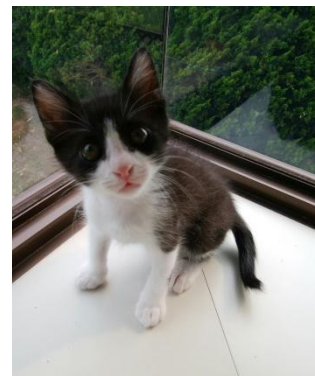
成長につれて飲む量が増えていくので、授乳間隔もそれにつれて長くなっていくことでしょう。(ミルク缶等に成長に応じた粉ミルクの量や1日の回数が表示されているので参考にしてください。ただし、飲む量には差があります。) 生後1か月頃になったら、子猫にもよりますが、1日に4、5回の授乳でも大丈夫です。この頃には、夜間は6～7時間あけても問題ないでしょう。

・離乳を始めるのはいつごろ？

生後 1 か月頃、歯が生え始めたら離乳の時期です。この頃にはミルクだけだと栄養が不足してくるので、子猫用離乳食、子猫用ウェットフード（缶詰やパウチ）やお湯でふやかした子猫用ドライフードを与えはじめましょう。スプーンの先にすくったり、清潔な指に少しのせたりして口に近づけてみましょう。ミルクを急にやめるのではなく、無理のないよう少しずつ移行していきましょう。また、哺乳瓶のゴムを噛んで飲もうとしなくなったら、お皿から飲ませはじめてみましょう。

離乳が完了し、ドライフードのみを食べられるようになっても、子猫の消化器系の発達は遅いので、お湯にふやかしたドライフードや猫用ミルクなどを 3 か月くらいまで併用することをお勧めします。

【MEMO】





排泄はどうしたらいいの？

赤ちゃん猫は自分で排泄ができないので、排泄を補助してあげる必要があります。お母さん猫がお尻を舐めるように、ぬるま湯に浸して軽くしぼったガーゼやティッシュなどで軽くトントンとお尻を刺激します。乾いたティッシュなどでゴシゴシこすったりすると、お尻が刺激で傷ついてしまうので止めてくださいね。

うつ伏せのまま支えて排泄させてあげるのが一番自然です。お尻を刺激すると自分から仰向けになることもあります、その時は赤ちゃん猫の好きなようにさせてあげてください。



○排尿で注意することは？

オシッコは比較的簡単にどんな子猫でもしてくれます。

オシッコは授乳前にさせておくとお腹に余裕ができて、ミルクをより多く飲んでくれるみたいです。授乳前にあまり出なかった場合は飲み終わってからでも必ずさせておきましょう。

ただし、1日オシッコが出ないと命に関わります。複数の子猫をお世話するときは特に気をつけてみてあげてください。(育児記録表をつけていると確認しやすいでしょう。)

⑨ 1日、尿が出ないと生死に関わる！ ➡ 病院へ

○排便で注意することは？

通常は排尿と同じ刺激で出てくれる便ですが、人工乳を与えると、必ずとっていいほど最初の数日間、便秘になるか下痢になるかのどちらかになることと思います。

しかし下痢が3日以上続いたら獣医さんに行ってください。水下痢の時はできるだけ早く診察を受けてください。脱水症状などを起こしてしまうので命に関わります。

また、便秘は2~3日位出なくてもだいじょうぶです。ですが便秘がひどくなると、最悪の場合、死亡する事もありますので、便が4日以上出ないときで、ミルクも飲まなくなってしまった場合は必ず獣医さんで診察してもらってください。

(育児記録表でチェックすると、確認しやすいですね。)

⑨ 下痢が3日以上続いたら生死に関わる！ ➡ 病院へ

特に、水っぽい下痢の時は早めに診察を！

⑨ 便が4日以上出ないとき ➡ 病院へ

* 子猫は短い間に症状が急変します。

少しでもおかしいなと思ったら迷わず早めに対応してくださいね！



○トイレの練習はいつ、どのように始めたらいい？

歯が生えて、活発に動き回るようになったら、いよいよトイレの練習です。子猫の様子を見ながら、遅くとも生後1ヶ月～1ヶ月半くらいの月齢になったら始めましょう。

大人用猫トイレは子猫には大き過ぎますので、子猫が自力で入れる高さ（5cm程度）、子猫が入って充分動き回れる大きさ（20cm四方以上）の箱に、トイレ用の砂を入れて準備します。この時の箱は、段ボールにビニールを敷いたものや、クッキーの空き缶、プラスチック容器等で代用できます。



砂は細かいウッディ（木）タイプの方がよいでしょう。鉱物系（ベントナイトで出来ている固まる砂）は、鼻などに入り気管支炎を引き起こす危険がありますし、紙砂は足元がぐらぐらして、子猫には不向きです。

寝起きや授乳前などに排泄しやすいので、そのタイミングにトイレに入れて、子猫の目の前で、人が指で砂をかくマネをして見せてあげましょう。

猫は本能的に砂を掘って排泄する感覚が備わっていますので、特に教えなくてもちゃんとできる子猫もいます。また、先住猫がいる場合は、すぐに見て覚えるでしょう。

自分で砂を掘るマネをし始めたらもうすぐです。個体差がありますので、焦らず、根気よくその子が自力排泄するようになるまで援助してあげてください。

トイレが寝床から遠いと、たどり着く前に排尿してしまい、失敗の元です。子猫時代だけでいいので、トイレは寝床のすぐ近くに置くことをお勧めします。

読んでいただき、ありがとうございました
今後も青い鳥の活動への協力をよろしくお願いいたします



青い鳥